



神戸大学は阪神・淡路大震災被災地の国立大学として、防災や復興にかかわる研究、国内外での研究成果の発信、地域社会への貢献活動を進めてきており、30年の節目を機にその蓄積を整理し、「神戸大学阪神・淡路大震災30年事業委員会」(委員長：藤澤正人学長)の下、研究や教育、災害文化の継承などについてまとめた上で今後の展開を見据え、社会への発信を全学で展開しています。

神戸大学 阪神・淡路大震災30年事業委員会 震災30年・キックオフ事業

神戸大学生30年の語り継ぎ・シンポジウム 「阪神・淡路大震災をどう受け継いできたか」

主 催：神戸大学地域連携推進本部
阪神・淡路大震災記念人と防災未来センター

開 催：2024年1月27日(土) 人と防災未来センター西館1F&オンライン
人と防災未来センター「災害伝承“語り継ぎ”探求サロン」シリーズ

挨 拶：奥村 弘(神戸大学理事・副学長・地域連携推進本部長)
登 壇：神戸大学災害ボランティア学生団体

学生震災救援隊(救援隊)	(1995年設立)
灘チャレンジ実行委員会(灘チャ)	(1995年設立)
灘地域活動センター(N.A.C.)	(1997年設立)
ボランティアバスプロジェクト	(2011年設立)

コメンテーター：津久井 進(兵庫県弁護士会 元会長・神戸大卒業生)
平林 英二(人と防災未来センター 企画ディレクター)
辛島 理人(神戸大学大学院国際文化学研究科 准教授)

コーディネーター：山地 久美子(神戸大学地域連携推進本部 特命准教授)
OB / OG：頼政 良太(被災地 NGO 協働センター代表)
(オンライン) 関本 英恵(灘地域活動センター 14年度代表)
稲葉 滉星(ポラバス 16年度代表・Konti 創設)

地域の方々：門脇 龍三(灘区・なぎさふれあいのまちづくり協議会)
高田 とし(灘区・灘チャ支援者)
菅 利秋(長田区・日吉町5丁目自治会)

学生たちは各団体の設立理念、先輩たちの想いを受け継ぎ、それぞれの代での活動を生み出しながら、後輩に語り継いできています。団体メンバー、OB／OG、教員、学生たちを支えてくださる地域の方々、120名の参加者と共に30年の活動と未来を考えました。



〔冒頭挨拶・まとめ〕奥村弘理事・副学長・副実行委員長：学生たちの30年を振り返り、教育、研究、ボランティアを未来に繋ぐ

本シンポジウムは、神戸大学阪神・淡路大震災30年事業のキックオフとなるものです。阪神・淡路大震災以降の大災害を契機とする災害・復興支援ボランティア活動への学生の想いや活動について、学生・OB／OG、地域の方々、教員たちが多様な立場、視点から意見を交わすことが目的です。学生が地域の方々と柔軟に楽しく取り組んできたことが他に例を見ない神戸大学の災害文化だと実感し、この一年、共に教育、研究、ボランティア活動を未来に繋いでいく事業のキックオフに相応しいものになりました。

「耐震構造の人間関係」学生震災救援隊

震災の翌週1月23日に設立した学生震災救援隊は、直後から避難所支援を始め、寺子屋、パトロール、「救援隊通信」発行など様々な支援活動を実施。その活動の根本にあるのは、人と人の繋がりを大切に「耐震構造の人間関係」＝団体創設の考えである。災害は元々あった問題を顕在化させるから「取り残された所に行く」との信念を持って29年間活動に取り組んでいる。今回、2022～24年度の代表3人も強調したのは、人と向き合うことを大事にしてきた救援隊の思想であり、代替わりの際にOB／OGから伝え聞き、仲間と語り合い、共感しあうネットワークの大切さと自由度の高さである。学生震災救援隊は灘チャレンジ実行委員会、灘地域活動センター、モダン・ドンチキといった重層的な形態で災害と真摯に向き合いながら、楽しい活動を目指している。

「住民皆さんと共に」灘チャレンジ実行委員会・灘地域活動センター

灘チャレンジ実行委員会は、1995年6月4日、震災復興祭「六甲祭」を六甲八幡神社で企画・運営したことから始まり、その後も開催形式を工夫しつつ劇・風刺劇など特長のあるものを継承してきた。地元の商店街の方々やOB／OGたちと構成する地元委員会から直々に経験を教えてもらい、語り合い、震災との繋がりを絶やさないようにコロナ禍も乗り越え活動している。

灘地域活動センターは、被災者が入居された災害公営復興住宅でのお茶会を1997年から継続して開催し、当時から、住民皆さんの話と被災の経験を伺いそれを記憶・記録に留めていて、これまでの軌跡が残っている。

「阪神・淡路と東日本大震災被災地をつなぐ」ポラパス

東日本大震災発災後、4月30日に設立し、岩手県を中心に被災者の早期復興への支援に向けて現地で60回、1700名以上の学生が活動してきた。被災地の復興のステージが変化し、23年に団体名から「東北」を外して活動の幅を広げ、地震、津波災害の伝承と防災・減災活動に重きをおき、阪神・淡路大震災激甚被災地長田区では平時の地域活動と慰霊・伝承活動へ参画し、岩手県大槌町では浪板大神楽など郷土芸能の伝統文化復興支援に取り組んでいる。

OB／OGからのメッセージ：学生時代のボランティア経験が使命感を芽生えさせ、仕事や社会貢献に取組むきっかけとなっている。

元旦に起こった能登半島地震被災地支援に尽力する頼政良代表は学生時代のネットワークが活動の展開に繋がっていて、関本英恵さんと稲葉凜星さんも仕事、社会での取組みと学生時代の活動との連続性について触れられた。

学生団体の活動を受入れ、支援くださる地域団体皆さん

「学生の皆さんと一緒に活動が楽しいし、自分たちも力をもらっている」との温かいメッセージが送られた。

平林英二ディレクターのコメント

30年間神戸大学生がしてきたことを深く立体的に知る機会となった。学生の皆さんがどれだけの時間を活動に費やしてきたのかと思うと、一言「すごい」と伝えたい。

津久井進弁護士コメント

司法修習生と学生（救援隊での活動）を両立していた。日弁連・災害復興支援委員会委員など歴任し、その根底には当時の活動があるから「今の自分が居る」と振り返れた。その上で、学生団体がこれまで継続できたのは、背負っているものとか、システムから自由であることが大切であったこと、それが持続可能性を高めてきたと気が付いた。皆さんがしたいことをやっていくことが大事だと思う。

辛島理人准教授のコメント

災害時の歴史資料の保存やボランティア活動など、神戸大学は日本社会へ公共財を様々提供してきた。これから政治・観光レジェーションはますます重要になり、更なる貢献ができると思う。

司会・山地久美子特准教授

形に残るもの、残さない活動がある中で学生震災救援隊と3団体が記録を続けた「救援隊通信」（2023年・71号）を発行している。ポラパスは「つながりポート」と阪神・淡路大震災のインタビューをまとめている。これから一年かけて、30年間の災害・復興支援ボランティア活動を冊子にまとめ、神戸大学と社会の公共財として残したい。



神戸大学生・教員・人と防災未来センターの皆さん

パネル展

阪神・淡路大震災を どう受け継いできたか —神戸大学生30年の語り継ぎ—

会場：人と防災未来センター西館1F
期間：2024年1月27日（土）～3月3日（日）
主催：神戸大学地域連携推進本部
人と防災未来センター



阪神・淡路大震災をどう受け継いできたか 神戸大学生 30 年の語り継ぎ・シンポジウム

「復興から、まちと繋がる学生団体へ」

神戸大学学生震災救援隊 (1995 年設立)

22 年度代表 植田 丈嗣 (4 年)

23 年度代表 西畑 克俊 (3 年)

24 年度代表 鈴木 蒼生 (2 年)



2055

「震災からの復興祭の運営」

灘チャレンジ実行委員会

23 年度代表 小柳 智久 (3 年)



2025

「震災後から続く、地域に根差した活動」

灘地域活動センター (N.A.C.)

23 年度代表 山品 俊介 (2 年)



1995

登壇 卒業生

被災地 NGO 協働センター代表 頼政 良太

灘地域活動センター 14 年度代表 関本 英恵

ボラバス 16 年度代表・Konti 創設 稲葉 滉星

「阪神・淡路大震災と東日本大震災をつなぐ語り継ぎ」

神戸大学ボランティアバスプロジェクト (2011 年設立)

23 年度代表 中村 莉央 (4 年)

24 年度代表 野々内 日向 (2 年)



2024 年 1 月 27 日 (土) 午後 2 時 ~ 4 時 30 分

人と防災未来センター「災害伝承“語り継ぎ”探求サロン」シリーズ 6

会場

人と防災未来センター西館

1F ガイダンスルーム 1

(無料ゾーン)

参加無料

神戸市中央区脇浜海岸通 1-5-2

会場とオンラインによるハイブリッド

事前申込フォーム 申込×切: 1 月 26 日

<https://forms.gle/hZBrexzcipu2XARK7>



挨拶 神戸大学理事・副学長・地域連携推進本部長 奥村 弘

登壇 神戸大学生 卒業生

コメンテーター

元・兵庫県弁護士会会長 (卒業生)

津久井 進

人と防災未来センター企画ディレクター

平林 英二

神戸大学大学院国際文化科学研究科准教授

辛島 理人

コーディネータ

神戸大学地域連携推進本部特命准教授

山地 久美子

同時開催

「阪神・淡路大震災をどう受け継いできたか
神戸大学生 30 年の語り継ぎ」パネル展示

会場: 人と防災未来センター西館 1F ロビー

開催: 2024 年 1 月 27 日 (土) ~ 3 月 3 日 (日)

主催: 神戸大学地域連携推進本部

阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター

問合せ

神戸大学地域連携推進本部 <https://www.office.kobe-u.ac.jp/crsu-chiiki/>

Eメール: crsu-vol@office.kobe-u.ac.jp Tel: 078-803-5418

神戸大学基金の支援を受けて実施しています

神戸大学阪神・淡路大震災 30 年事業委員会 地域連携・ボランティア実行委員会事業

Designed by 西畑克俊

神戸大学学生震災救援隊

1995年1月23日設立

発足当時の救援隊(1995)

神戸大学は生協食堂、農学部、国際文化学部体育館などが避難所になった。大学生協あてに届いた物資を用いて学生が自主的に炊き出しを開始。その後、1月23日に同じ大学生協に避難していた学生を中心に「神戸大学学生震災救援隊」が発足



地震を跳ね返す耐震構造の人間関係を作る

大規模災害では、通常の行政が可能なサービス提供量をはるかに上回る被災者のニーズが発生する。そのため「自助・共助」が重要となり、それを実現するためには「日常的に地域の人同士間の横のつながり」が必要である。このような横のつながりを実現するために「市民とともに、市民のひとりとして」町に関わろうとする学生が集まっているのが学生震災救援隊



学生震災救援隊の隊員たちは、地域住民の方や避難者の方と協力しながらお風呂運営や炊き出し、テント村パトロール、子供たちの学習支援などのボランティア活動を行った。



耐震構造の人間関係

学生

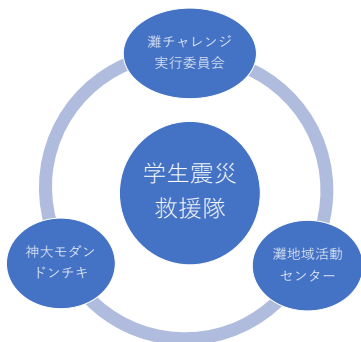
- 学生同士のつながり
- 学生と地域の人とのつながり

地域

- 地域人と地域の人とのつながり
- 地域と行政のつながり

現在の救援隊(2024)

現在の学生震災救援隊は阪神・淡路大震災からの復興祭である灘チャレンジ、隔週土日でHAT神戸と岩屋でお茶会を開催する灘地域活動センター、全国各地でチンドンの演奏を行う神大モダンドンチキ3団体と連携して活動を行っている。学生震災救援隊は主に震災継承イベントの開催、水害や地震の被災地に赴き足湯などのサロン活動を行う。



令和6年能登半島地震被災地での支援活動

令和6年1月1日に起きた能登半島地震の被災地である石川県輪島市、七尾市で支援活動を行いました。この活動は現地で活動している被災地NGO協働センターの協力と現地の七尾市中島区の集会所からの支援要請があったため実現したものです。



現地では足湯で現地の方と交流を行い、現地支援のニーズを把握しました。また、被災された住宅で瓦礫などの片付けの手伝いをさせていただきました。

灘チャレンジ実行委員会

1995年6月4日第1回開催

当時、神戸大学学生救援隊所属の中北が委員長となり「復興祭—NADA Challenge—」が開催された。
“復興祭”がメインタイトルで、“NADA Challenge”はサブタイトルであった。サブタイトルには、
灘のまちづくりに、学生が住民と共にチャレンジするという意味が込められている。

1995～2001 灘チャレンジ初期

- ・1995年6月4日 復興祭—NADA Challenge— 開催
中北委員長の下、六甲八幡神社（現在駐車場となっている場所）で開催される。約3,000人の来場者を得た。
- ・1996年6月 NADA Challenge 開催
内野委員長の下、1995年と同じ場所で第2回が開催される。この年は、神戸大学総合ボランティアセンターとの共催という形で開催される。
現在の灘チャレンジ実行委員会は、学生震災救援隊と総合ボランティアセンターの2つの団体に所属する形となっており、1996年のNADA Challengeがその始まりとなっている。
- ・1997年6月 NADA Challenge 開催
過去2年で開催場所としていた六甲八幡神社の場所が駐車場として整備されたことから、会場を都賀川公園に移して開催される。
この年から助成金を得ることができなくなり、水道筋商店街などから広告協賛をいただくことが始まる。
- ・1998年～ 灘チャレンジ 開催
祭りの名称が“NADA Challenge”から“灘チャレンジ”に変更される。
98年は大和公園に開催場所を移したが、99年以降は毎年都賀公園で開催されるようになる。
1995年の復興祭—NADA Challenge—から、毎年寸劇が公演される。

「復興祭」としての灘チャレンジ

「人と人とのつながりやコミュニティづくり」の灘チャレンジ

「コロナ禍」の灘チャレンジ

2008～2018 灘チャレンジ

- ・2008年6月1日 灘チャレンジ2008 開催
社会問題を題材とした風刺劇の公演が灘チャレンジのメイン企画となってきた。この年は夜間中学を題材とした劇。
- 2008年7月28日 都賀川水難事故
2009年の灘チャレンジ以降、都賀川水難事故の継承活動が展示等の企画で毎年行われるようになる。
- ・2016年の灘チャレンジより、消火器を使った消火訓練体験企画を開始
- ・2018年の灘チャレンジ2018では、10,000人の来場者を得る。
- 2019～ 灘チャレンジ
- ・2019年の灘チャレンジ2019が雨により中止
- ・2020年 都賀川公園での開催を断念し、12月にオンライン上での企画を計画。“オンライン灘チャレンジ”を実施。
- ・2021年 都賀川公園での開催を断念し、冊子「なだなんだ」を発行。
- ・2022年 4年ぶりに都賀川公園で開催。

震災から29年 何を受け継いできたか

私たち灘チャレンジ実行委員会は、阪神・淡路大震災の復興祭として始まったお祭りである。この第1回の灘チャレンジは、震災直後の1月23日に設立された「神戸大学学生震災救援隊」の1つの活動として実施された。設立当初の震災救援隊は、テント村など公的な救援が届きにくい場所にいる人への支援であったようだ。こういった内容は震災救援隊が独自で発行していた“救援隊通信”の第10号に記載されており、そこで当時の代表が、ともに協力した社会人や活動家への感謝の言葉が記されており、地域の人とのつながりがあったことが読み取れる。灘チャレンジもそういった“地域とのつながり”の中で誕生したお祭りで、学生が主体となって作り上げていくお祭りであるが、実態としては学生と地域の人々が5:5の割合で関わっており、地域とともに作り上げるお祭りであった。

2000年代に入って、灘チャレンジが“復興祭”という文字通りの性格だけで継続していくことに疑問を持つようになった。灘チャレンジは1996年の第2回開催から、震災救援隊と神戸大学総合ボランティアセンターの共催という形で運営されてきたが、2001年度の終わりに総合ボランティアセンターが灘チャレンジの取り組みを放棄しようとする動きがあった。結果として現在に至るまで灘チャレンジは総合ボランティアセンターの1つのセクションとして存続しているため、実際に放棄されることにはならなかったが、灘チャレンジの開催理由を考え直すきっかけとなった。そして灘チャレンジは“復興祭”に加えて、“復興の過程や復興そのものから見えてきた問題を発信する場や、祭りを創る人と来場者との交流、さまざまなものごとに出会うきっかけとしての場”などといった性格が強くなっていった。祭り当日には、問題を発信する場として「寸劇・風刺劇」が継続して公演されたり、地域で活動しているボランティア団体などに模擬店の出店をしてもらっていた。

そして現在、新型コロナウイルスの流行によってこれまで創り上げてきた地域との関わりやOB・OGとの交流がなくなってしまったことで、これまでの灘チャレンジがどのようなことを大事にしてきたかといったことが受け継がれることがなくなってしまった。2022年に4年ぶりに開催された灘チャレンジは“コロナ禍からの復活”を前面に押し出したお祭りで、今年度開催した灘チャレンジ2023は、2010年代の開催規模に回復させることに注力する形となった。

灘チャレンジは震災発生からの経過やその時々々の社会情勢に合わせて内容が変化していったが、ここまで29年で一貫していたことは、第1回開催のサブタイトルに込められた「灘のまちづくりに、学生と住民がともにチャレンジする」ということをその時代の学生が意識して祭りを企画・運営してきたということである。

左から灘チャレンジ2008、灘チャレンジ2013、灘チャレンジ2015



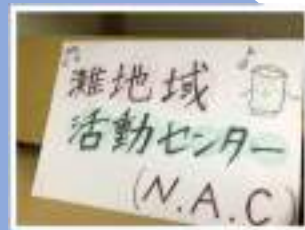
灘チャレンジ2023

灘地域活動センター

設立1997年4月

設立のきっかけ・活動内容

阪神淡路大震災ののちに避難所などで支援活動を行っていた学生組織が前身となり、1997年に灘地域活動センターが設立され、1999年から現在の活動場所である兵庫県営岩屋北町住宅とHAT神戸灘の浜で活動することとなりました。コロナ禍で一時中断されていた時期もありますが、25年以上にわたってお茶会・戸別訪問活動による住民さんとの交流活動を続けています。



毎週末に二か所の集会所でお茶会を開催し地域の住民さんと交流する活動を主として、そのほかに季節ごとのイベント・レクリエーション企画を行ったり、年賀状の送付を行ったりもしています。



お茶会では、毎回15～25名ほどの住人さんに参加いただいております、飲み物やお菓子を食べながら住民さん同士や学生との会話を楽しんでいただいています。



お茶会に参加されるのは地域のご高齢の方が中心で、足腰を悪くされて外出の機会が減ったり、ご家族と離れて暮らしており支援が得にくい状態にあたりする方に、地域住民同士・あるいは学生との交流・関係性の構築の機会を提供することが活動の主な目的です。



神戸大学ボランティアバスプロジェクト

2011年4月30日設立

設立のきっかけ

東日本大震災発生直後から

「被災地に何かできることはないか」という多くの学生の声が大学に寄せられたこと

をきっかけにボランティアバスが派遣され、23名で岩手県大槌町、陸前高田市を訪れました。

目的

東日本大震災の被災地に継続的に神戸大学生を送り込み、被災者に寄り添う活動を行い、被災者の自立を支援し被災地の早期復興を図ること

震災後避難所や仮設住宅で生活されている方々へのケアを中心に実施。



参加者の声

今回参加して感じた事は、継続的な支援の重要性だ。現地の方はよく、「忘れられることが一番怖い」「ボランティアが来てくれるだけで嬉しい」とおっしゃる。「私達は忘れていません」このメッセージを届けるために、これからも現地に通い続けるつもりだ。

ほんとに何の変哲も無いところに津波がきて、「この町を特別にしてしまった」でもだからこそ、自分が来てこの町が好きになって、僕にとって特別になった。僕にとっては何より会いたい人がいるのと、ご飯が美味しいのと会いたい仲間が居る場所が陸前高田です。

初めて東北に行きましたが、思ったよりも復興が進んでいないというのが最初の印象でした。

目的

阪神・淡路大震災の被災地域でのボランティア活動を通して当該地域に貢献する。また、震災やその教訓について学び、学生企画の防災プログラムの実施や震災伝承を通して、しなやかなまちづくりに寄与する。

将来予測される災害に備えるため、東日本大震災の被災者の声を神戸で語り継いでいく。そのために、語り部の担い手となる学生を育成する。

岩手県大槌町で行われているお祭りに学生を送り込み、祭りの盛り上げに寄与する。また東北の文化を神戸で広げ、東北に関心を持つ学生を増やす。

また、神戸で得られる阪神・淡路大震災の語り部活動に関する知見を東北の方々に提供し、震災を経験していない者としての語り部のあり方を共に模索する。

参加者の声

震災についてだけでなく震災の前、そして震災が起きてから今も続く暮らしについても考えるきっかけがうまれた旅だったと思う。私たちがすぐに今の日本の防災意識を変えられるわけではないと思うが、考えることをやめてはいけなと強く感じた。

私の地元は絶対に津波が来ないので本当に実感が湧かなかった。ただそんな中で当事者意識を持った防災活動をするにはどうすればよいのか、一人一人の行動から始まるのだろうが、悩んでまだ答えや解決の糸口が出ていない。

大川小学校で語り部の方が経験に血を通わせる事が大切と仰っていて、戦争やほかの災害でも報道では被害の人数や被害の状況を伝えるだけだが、被害にあった人にもそれぞれの人生があることを忘れない事が大切だと感じた。



設立当初

現在

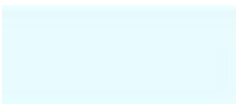
神戸大学ボランティアバスプロジェクト 神戸市長田区での1年間の活動写真

当団体は2023年4月より新たに、神戸市長田区（主に日吉5丁目や旭若松地区）で地域活動の運営ボランティアとして活動しつつ、阪神・淡路大震災の経験や教訓の伝承活動や地域のつながりによるしなやかな防災まちづくりを目指してきました。繋がり の展開と変遷をご紹介します。



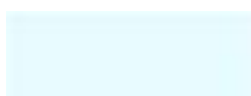
春。大学の先生にご紹介いただき、住民さんと繋がること
ができる。長田の街歩きやふれあい喫茶への参加、人と防
災未来センターへの見学を行い、長田の街について知る。

初夏。震災以後、若松鷹取公園にて毎月行わ
れている第198回目の市民消火隊の活動に参
加。初期消火の重要性と、日頃の訓練への参
加の大切さを知る。



夏。日吉5丁目の地蔵盆の運営ボランティア
を行う。雷雨の中大勢の子ども・親子が来ら
れ、地域のつながりが地域主催のイベントで
作られていることを実感する。

冬。ふれあいのまちづくり協議会主催の餅つき大会の運
営ボランティアを行う。後日、「あのときはありが
とう！」多くの方に言っていただけで嬉しく思う。

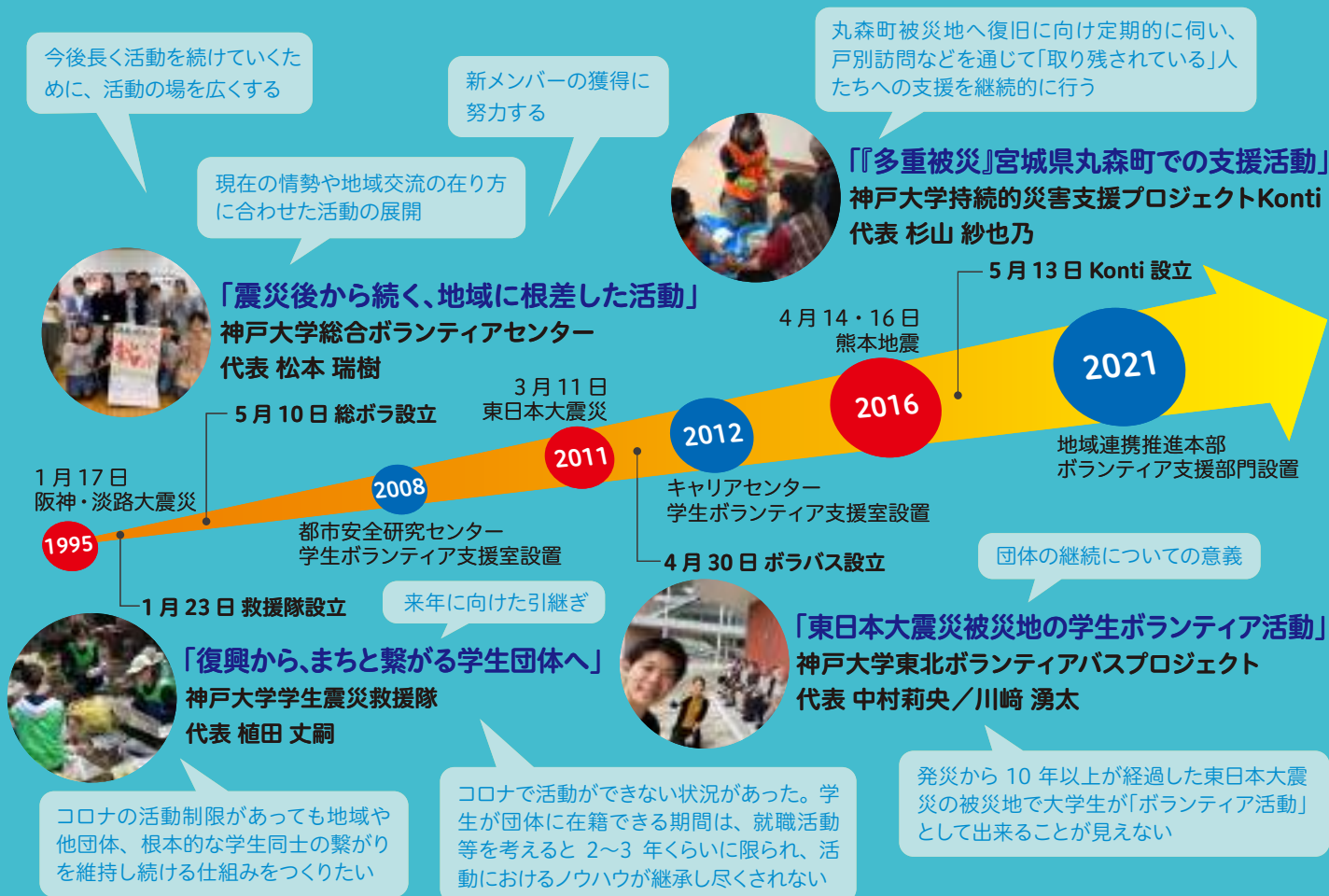


冬。「KOBEに灯りをinながた 2024」追悼行
事で使用する再生ろうそくづくりと講話を、
3つの小学校で行う。防災教育の難しさと
やりがいを実感する。

冬。1月17日の日吉5丁目慰霊祭準備と運営ボランティア、およ
び「KOBEに灯りをinながた 2024」の運営を行う。ご参列された
新潟県中越地震山古志村の皆さんと被災地間交流を深める。
今回は慰霊祭についてと住民さんの経験インタビューを冊子に
まとめる予定だが、今後、阪神・淡路大震災をどう語り継いで
いくかについての期待と課題を感じる。

つなぐ、地域と大学の27年

神戸大学災害・復興ボランティアの全国展開と地域連携のこれから



学生ボランティアは4年という限られた期間の中で、毎年、学年メンバーが入れ替わりながら活動を継続する特殊な環境です。新型コロナウイルス感染拡大防止対策の2年におよぶ活動制限も様々な形で影響を与えています。本シンポジウムでは神戸大学の学生・教職員と地域の方々から阪神・淡路大震災発生から兵庫県、全国で実践してきた災害・復興ボランティア活動を紹介するとともに継続的な活動支援に向けて地域社会全体で支える仕組みを考えます。

神戸大学

開会	理事・副学長・地域連携推進本部長	奥村 弘
コメント	神戸大学都市安全研究センター教授	近藤 民代
閉会	地域連携推進本部副本部長・農学研究科教授	田中丸 治哉
司会	地域連携推進本部地域連携教育部門長特命准教授	松下 正和
コーディネーター	地域連携推進本部ボランティア支援部門長特命准教授	山地 久美子

地域・応援団

地域	なぎさふれあいのまちづくり協議会委員長	門脇 龍三 (HAT 神戸)
	NPO法人エフエムわいわい代表	金 千秋 (神戸大学GSP研修型プログラム・受入れ)
	NPO法人神戸まちづくり研究所理事長	野崎 隆一
	一般社団法人おらが大槌夢広場・大槌町地域おこし協力隊	北浦 知幸

先輩

一般社団法人みくもや理事／救援隊OB 坪田 卓巳

(旧) 神戸大学学生ボランティア支援室

福島大学地域未来デザインセンター特任准教授／総ボラ・救援隊OB 藤室 玲治

2022年10月23日(日)
10:30～12:00

会場 ALL HATひとぼうステージ

場所 HAT神戸・なぎさ公園 ぼうさいこくたい会場内
阪神岩屋駅から南へ約500m/JR灘駅から南へ約700m
雨天時は状況判断

参加申込(事前登録) お問合せ

お名前・ご所属等・Eメール・当日の連絡先・都道府県／市町村を記載の上、下のいずれかの方法でご登録ください。

Googleフォーム(右QRコードから)
<https://forms.gle/L2dMbjgSasci5Xe7>

Eメール crsu-vol@office.kobe-u.ac.jp

電話 078-803-5391

(事務:研究推進部連携推進課)

HP <https://www.office.kobe-u.ac.jp/crsu-chiiki/>

ALL HAT ひょうご防災フェスタ2022
<https://hitobou.com/allhat/2022/>

主催：神戸大学地域連携推進本部



神戸大学創立120周年記念事業



神戸大学地域連携推進本部ボランティア支援部門

登録ボランティア団体 ー災害・復興ボランティア活動ー

神戸大学学生震災救援隊 (救援隊)

灘チャレンジ実行委員会
神大モダンドンチキ
N.A.C. (灘地域活動センター)

神戸大学東北ボランティアバスプロジェクト (ボラバス)

神戸大学持続的災害支援プロジェクト Konti (Konti)

4つの団体活動紹介のポスター「災害・復興ボランティアと大学の未来ー全国で神戸大学生が共に築いてきたもの」を
ぼうさいこくたい2022 (10/22-23 開催) で展示しています

会場:人と防災未来センター東館 1F こころのシアター前【PS-10】

ぼうさいこくたい 2022HP: <https://bosai-kokutai.jp/2022/>

本事業は神戸大学基金の助成を受けています

神戸大学総合ボランティアセンター (総ボラ)

- 子ども分野
住之江児童館セクション
- 高齢者分野
灘地域活動センター (N.A.C.) セクション
- 障害者分野
障害者セクション
点訳セクション
まーくん☆チームセクション
手話サークルぺんぺん草セクション
- まちづくり分野
とんかちボランティアセクション
灘チャレンジセクション



神戸大学学生震災救援隊

救援隊の始まり

阪神淡路大震災発生直後、1995年1月23日に救援隊は結隊されました。当時、神戸大学避難所内にいた学生を中心に、公的な支援が届きにくい場所にいる人々を中心に支援を行っていました。そして、95年4月以降は、仮設住宅での取り組みや復興祭・灘チャレンジの開催など、現在に繋がる活動が開始されました。

現在の活動の紹介



灘チャレンジ実行委員会

1995年に、八幡神社で「復興祭～NADA Challenge～」を開催して以降毎年恒例のイベントとなった。「NADA Challenge」とは、「灘のまちづくりに、学生が住民とともにチャレンジする」という意味を込めており、学生がまちの繋がりを主体的に創るイベントである。雨天やコロナ禍の影響で2019～2021年は開催できなかったが、2022年9月18日には都賀川公園にて3年ぶりに対面で開催することができた。

灘地域活動センター (N.A.C)

神戸大学総合ボランティアセンターによる大和仮設住宅での活動と救援隊の高羽仮設住宅支援活動が合流し、1997年に設立される。県営岩谷北町住宅とHAT神戸灘の浜集会所にて毎週お茶会を行い、コミュニティ形成を支援している。コロナ禍によってお茶会を開催できない時期においても、はがきのやりとりで住民さんとの交流を続け、現在は毎週土曜日のお茶会を再開することができている。



神大モダン・ドンチキ

不定期で結成されていた「チンドン屋」での賑やかな活動がグループ化して、2000年に結成された。プロのチンドン屋とも交流しながら、日本で有数のチンドン屋サークルへと成長した。コロナ禍によって、出演依頼が激減したが、その中でも学生のみでの練習は続け、2022年度においては多くの出演依頼を受け、地域を元気にできた。また、2022年の灘チャレンジにも出演した。

災害派遣活動

1998年に北関東豪雨水害への支援活動を行ったことから始まった。2007年～2011年ごろまでは「中越・KOBE足湯隊」という枠組みで足湯に入っている現地の方の手をもみながら傾聴する活動を積極的行った。現在では、コロナ禍で1～2年ほど行けていなかった現地での活動を再開しており、2022年5月には宮城県丸森町でのサロン会、8月には宮城県山元町の夏祭りのお手伝いを行った。



過去の活動

どんぐりチーム・・・灘チャレンジでの交流をきっかけとして始まり、どんぐり学童保育所での活動を行ったさくら（救援隊高齢者福祉企画局）・・・・・・2003年と2004年に、グループハウス尼崎において、調査やイベントの手伝いを行った
野宿・貧困問題企画局・・・・・・野宿や貧困問題についての勉強会や夜回りなどのフィールドワークを実施した
などなど、さまざまな社会問題に取り組む

神戸大学総合ボランティアセンター セクション紹介

手話サークルぺんぺん草§ 平日週2
休日月2



手話を楽しく
学んでいます。
11月13日の六甲
祭では手話歌を
披露します！

障がい者§ 隔週金曜19時30～



障がい者の方と
身近に交流でき
ます。楽しいイ
ベントが盛りだ
くさん！

住之江児童館§ 毎週土曜13～17時



児童館にお邪魔
して子どもたち
と遊んでいます。
子ども好きには
たまらない！

点訳§ 隔月活動



ゲームや練習を
通じて、点字や
視覚障がいにつ
いて楽しく勉強
をしています。

とんかち§ 毎週日曜9時～12時



須磨区にある天
井川公園の整備
をしています。
神戸の街の中で
緑あふれる自然
を感じよう！

N.A.C.§ 毎週土曜13時～17時



災害復興住宅で
おじいちゃん、
おばあちゃんと
まったりお茶会
をしています！

まーくん☆チーム§ 平日朝



知的障がいをも
つまさきさんと
いっしょにお散
歩をします！

灘チャレンジ§ 隔週MT



震災をきっかけ
に地域のお祭り
を創っています。
実行委員みんな
が活躍できる！

1995年5月10日にセンターが発足して以来、地域のニーズに対応するために様々な活動が行われてきました。2022年現在は主に上の8つのセクションで活動を行っています。

**興味のある活動があれば、いつでもご連絡ください！
ボランティア活動のご依頼も、ご相談ください！**

Mail : kobeuniv.vc@gmail.com

Twitter: @kuvvc1995

神戸大学 東北ボランティアバスプロジェクト



団体について

神戸大学東北ボランティアバスプロジェクトは、神戸大学に籍をおく、学生主体の被災地ボランティア団体です。2011年5月に活動を開始し、延べ1700人以上の学生とともに57回の派遣活動を実施してきました。震災当初は岩手県内陸にある遠野市に拠点を置き、津波による甚大な被害を受けた沿岸部にて、避難所での足湯活動、公共施設での整地等を行いました。地域コミュニティ形成を目的とし、陸前高田市・釜石市・大槌町・山田町を中心として、住民の方々を対象に足湯・手芸・お茶会活動を行っています。また、神戸でも写真展や活動報告会などを開催し、現地の状況や魅力、私たちの活動について発信しています。

団体の活動年表

2011/4~

1~10次派遣活動
定期前赴（約1週間）活動を行う

2012

11次派遣活動
「神戸大学東北ボランティアバスプロジェクト」の活動開始

2013

12、13次派遣活動
「遠野市」の活動開始

14次派遣活動
「釜石市」の活動開始

15次派遣活動
「大槌町」の活動開始

16次派遣活動
「山田町」の活動開始

17次派遣活動
「釜石市」の活動開始

18次派遣活動
「大槌町」の活動開始

19次派遣活動
「山田町」の活動開始

20次派遣活動
「釜石市」の活動開始

21次派遣活動
「大槌町」の活動開始

22次派遣活動
「山田町」の活動開始

23次派遣活動
「釜石市」の活動開始

24次派遣活動
「大槌町」の活動開始

25次派遣活動
「山田町」の活動開始

26次派遣活動
「釜石市」の活動開始

27次派遣活動
「大槌町」の活動開始

28次派遣活動
「山田町」の活動開始

29次派遣活動
「釜石市」の活動開始

30次派遣活動
「大槌町」の活動開始

31次派遣活動
「山田町」の活動開始

32次派遣活動
「釜石市」の活動開始

33次派遣活動
「大槌町」の活動開始

34次派遣活動
「山田町」の活動開始

35次派遣活動
「釜石市」の活動開始

36次派遣活動
「大槌町」の活動開始

37次派遣活動
「山田町」の活動開始

38次派遣活動
「釜石市」の活動開始

39次派遣活動
「大槌町」の活動開始

40次派遣活動
「山田町」の活動開始

41次派遣活動
「釜石市」の活動開始

42次派遣活動
「大槌町」の活動開始

43次派遣活動
「山田町」の活動開始

44次派遣活動
「釜石市」の活動開始

45次派遣活動
「大槌町」の活動開始

46次派遣活動
「山田町」の活動開始

47次派遣活動
「釜石市」の活動開始

48次派遣活動
「大槌町」の活動開始

49次派遣活動
「山田町」の活動開始

50次派遣活動
「釜石市」の活動開始

51次派遣活動
「大槌町」の活動開始

52次派遣活動
「山田町」の活動開始

53次派遣活動
「釜石市」の活動開始

54次派遣活動
「大槌町」の活動開始

55次派遣活動
「山田町」の活動開始

56次派遣活動
「釜石市」の活動開始

57次派遣活動
「大槌町」の活動開始

58次派遣活動
「山田町」の活動開始

59次派遣活動
「釜石市」の活動開始

60次派遣活動
「大槌町」の活動開始

61次派遣活動
「山田町」の活動開始

62次派遣活動
「釜石市」の活動開始

63次派遣活動
「大槌町」の活動開始

64次派遣活動
「山田町」の活動開始

65次派遣活動
「釜石市」の活動開始

66次派遣活動
「大槌町」の活動開始

67次派遣活動
「山田町」の活動開始

68次派遣活動
「釜石市」の活動開始

69次派遣活動
「大槌町」の活動開始

70次派遣活動
「山田町」の活動開始

71次派遣活動
「釜石市」の活動開始

72次派遣活動
「大槌町」の活動開始

73次派遣活動
「山田町」の活動開始

74次派遣活動
「釜石市」の活動開始

75次派遣活動
「大槌町」の活動開始

76次派遣活動
「山田町」の活動開始

77次派遣活動
「釜石市」の活動開始

78次派遣活動
「大槌町」の活動開始

79次派遣活動
「山田町」の活動開始

80次派遣活動
「釜石市」の活動開始

81次派遣活動
「大槌町」の活動開始

82次派遣活動
「山田町」の活動開始

83次派遣活動
「釜石市」の活動開始

84次派遣活動
「大槌町」の活動開始

85次派遣活動
「山田町」の活動開始

86次派遣活動
「釜石市」の活動開始

87次派遣活動
「大槌町」の活動開始

88次派遣活動
「山田町」の活動開始

89次派遣活動
「釜石市」の活動開始

90次派遣活動
「大槌町」の活動開始

91次派遣活動
「山田町」の活動開始

92次派遣活動
「釜石市」の活動開始

93次派遣活動
「大槌町」の活動開始

94次派遣活動
「山田町」の活動開始

95次派遣活動
「釜石市」の活動開始

96次派遣活動
「大槌町」の活動開始

97次派遣活動
「山田町」の活動開始

98次派遣活動
「釜石市」の活動開始

99次派遣活動
「大槌町」の活動開始

100次派遣活動
「山田町」の活動開始

ー復旧支援から、コミュニティ支援へー

～2016年 仮設住宅に於ける集会所での足湯、手芸、カフェ活動、戸別訪問

2017年～ 仮設住宅を出る住民さんの生活の変化に対応し、復興公営住宅での活動、地域全体を対象にしたイベント活動へ

2017

37～39次派遣活動

40～42次派遣活動

43～45次派遣活動

46～48次派遣活動

49～51次派遣活動

52～54次派遣活動

55～57次派遣活動

58～60次派遣活動

61～63次派遣活動

64～66次派遣活動

67～69次派遣活動

70～72次派遣活動

73～75次派遣活動

76～78次派遣活動

79～81次派遣活動

82～84次派遣活動

85～87次派遣活動

88～90次派遣活動

91～93次派遣活動

94～96次派遣活動

97～99次派遣活動

100～102次派遣活動

103～105次派遣活動

106～108次派遣活動

109～111次派遣活動

112～114次派遣活動

115～117次派遣活動

118～120次派遣活動

121～123次派遣活動

124～126次派遣活動

127～129次派遣活動

130～132次派遣活動

133～135次派遣活動

136～138次派遣活動

139～141次派遣活動

142～144次派遣活動

145～147次派遣活動

148～150次派遣活動

151～153次派遣活動

154～156次派遣活動

157～159次派遣活動

160～162次派遣活動

163～165次派遣活動

166～168次派遣活動

169～171次派遣活動

172～174次派遣活動

175～177次派遣活動

178～180次派遣活動

181～183次派遣活動

184～186次派遣活動

187～189次派遣活動

190～192次派遣活動

193～195次派遣活動

196～198次派遣活動

199～201次派遣活動

202～204次派遣活動

205～207次派遣活動

208～210次派遣活動

211～213次派遣活動

214～216次派遣活動

217～219次派遣活動

220～222次派遣活動

223～225次派遣活動

226～228次派遣活動

229～231次派遣活動

232～234次派遣活動

235～237次派遣活動

238～240次派遣活動

241～243次派遣活動

244～246次派遣活動

247～249次派遣活動

250～252次派遣活動

253～255次派遣活動

256～258次派遣活動

259～261次派遣活動

262～264次派遣活動

265～267次派遣活動

268～270次派遣活動

271～273次派遣活動

274～276次派遣活動

277～279次派遣活動

280～282次派遣活動

283～285次派遣活動

286～288次派遣活動

289～291次派遣活動

292～294次派遣活動

295～297次派遣活動

298～300次派遣活動

301～303次派遣活動

304～306次派遣活動

307～309次派遣活動

310～312次派遣活動

313～315次派遣活動

316～318次派遣活動

319～321次派遣活動

322～324次派遣活動

325～327次派遣活動

328～330次派遣活動

331～333次派遣活動

334～336次派遣活動

337～339次派遣活動

340～342次派遣活動

343～345次派遣活動

346～348次派遣活動

349～351次派遣活動

352～354次派遣活動

355～357次派遣活動

358～360次派遣活動

361～363次派遣活動

364～366次派遣活動

367～369次派遣活動

370～372次派遣活動

373～375次派遣活動

376～378次派遣活動

379～381次派遣活動

382～384次派遣活動

385～387次派遣活動

388～390次派遣活動

391～393次派遣活動

394～396次派遣活動

397～399次派遣活動

400～402次派遣活動

403～405次派遣活動

406～408次派遣活動

409～411次派遣活動

412～414次派遣活動

415～417次派遣活動

418～420次派遣活動

421～423次派遣活動

424～426次派遣活動

427～429次派遣活動

430～432次派遣活動

433～435次派遣活動

436～438次派遣活動

439～441次派遣活動

442～444次派遣活動

445～447次派遣活動

448～450次派遣活動

451～453次派遣活動

454～456次派遣活動

457～459次派遣活動

460～462次派遣活動

463～465次派遣活動

466～468次派遣活動

469～471次派遣活動

472～474次派遣活動

475～477次派遣活動

478～480次派遣活動

481～483次派遣活動

484～486次派遣活動

487～489次派遣活動

490～492次派遣活動

493～495次派遣活動

496～498次派遣活動

499～501次派遣活動

502～504次派遣活動

505～507次派遣活動

508～510次派遣活動

511～513次派遣活動

514～516次派遣活動

517～519次派遣活動

520～522次派遣活動

523～525次派遣活動

526～528次派遣活動

529～531次派遣活動

532～534次派遣活動

535～537次派遣活動

538～540次派遣活動

541～543次派遣活動

544～546次派遣活動

547～549次派遣活動

550～552次派遣活動

553～555次派遣活動

556～558次派遣活動

559～561次派遣活動

562～564次派遣活動

565～567次派遣活動

568～570次派遣活動

571～573次派遣活動

574～576次派遣活動

577～579次派遣活動

580～582次派遣活動

583～585次派遣活動

586～588次派遣活動

589～591次派遣活動

592～594次派遣活動

595～597次派遣活動

598～600次派遣活動

601～603次派遣活動

604～606次派遣活動

607～609次派遣活動

610～612次派遣活動

613～615次派遣活動

神戸大学持続的災害支援プロジェクト

Konti

ーこれまでー

2016.4～
熊本地震 Konti設立 / 第1次-6次熊本派遣活動
2017.4～
第7次-16次熊本派遣活動
Konti meets Bousai / Konti meets Global
Konti meets Beach / Konti meets Hoiku
Konti meets Media / Konti meets Agri
Konti meets Person
2018.4～
第17次-28次熊本派遣活動
兵庫県丹波派遣活動
第1次-13次岡山派遣活動
Konti meets Community / コミュニティミーツ怪談
Konti meets Contexts / Konti meets Place
2019.4～
第29次-35次熊本派遣活動
第14次、15次岡山派遣活動
2019.11～
第1次-3次宮城派遣活動
Konti meets 1/17 / Konti meets Home
2020.1
1.17 → イッテンイチナナカラ
第4次宮城派遣活動
2020.2
第36次熊本派遣活動
第5次宮城派遣活動
2020.3
第37次熊本派遣
2020.10
第6次宮城派遣活動
2020.11～2021.01
フードバンクはりま
2022.5
第7次宮城派遣活動

ーこれからー

たくさんの方々からのご支援・ご協力のもと、2019年度末をもって熊本と岡山での取り組みは終了を迎えました。今後は、2019年11月から開始した宮城県丸森町での活動と、神戸での活動を中心に精進してまいります。「まち」と、そこに暮らしそのまちを想う「ひと」のジソクを目指し、神戸に住む私たちワカモノ・ヨソモノだからこそできることをしよう。そんな想いを胸に、これからも学生一丸となって自問し、活動に取り組めます。



ーわたしたちー

神戸大学持続的災害支援プロジェクトKontiは2016年熊本地震をきっかけに発足した団体です。「災害をきっかけにまちがよくなる」、「まちへの想いをまちの持続につなげる」ことをビジョンに掲げ、これまで熊本県西原村、岡山県倉敷市、宮城県丸森町、兵庫県神戸市・姫路市にて活動を行ってきました。

ーKontiの活動ー



熊本 西原村

熊本では、2016年から37回にわたり、住民さんと協働で様々な活動に取り組まれました。小さな取り組みを重ねていくことで、暮らす人々がその時々に合わせてデザインできる地域の在り方を模索してきました。



兵庫 神戸市 姫路市

神戸は、Kontiの拠点であり、様々な現地活動を通じて学生が得た気づきや悩みを、これからの更なる活動を考えるためのヒントへと昇華すべく主に講演会「Konti meets X」を開催してきました。2020年度にはフードバンクはりま様との活動も実施しました。



岡山 真備町

岡山では平成30年7月豪雨災害をきっかけに活動を開始し、15回の活動を実施しました。「災害に強いまちを目指したい」という住民さんの声をカタチに変えるべく防災ワークショップを計11回開催し、地域の避難訓練が実現しました。



宮城 丸森町

宮城では令和元年台風19号による被害をきっかけに活動を開始しました。計7回の現地活動を実施し、泥かきや戸別訪問等の活動に取り組みました。近年はコロナ禍により、オンライン企画を実施するなど、今後の活動の展開を日々模索している段階にあります。今年度はオンラインでの活動は勿論、現地での活動も実施予定です。



KOBE Univ. SUSTAINABLE VONTEER PROJECT KONTI



神戸大学持続的災害支援プロジェクト Konti

〒657-8501 神戸市灘区六甲台町1-1
神戸大学 地域連携推進本部

MAIL kobekonti@gmail.com